

喬木村ゼロカーボンシティ宣言

～2050年までに二酸化炭素排出実質ゼロを目指して～

近年、地球温暖化が原因と見られる気候変動の影響により、世界規模で自然災害が頻発・激甚化しています。本村においても、令和2年7月に記録的な集中豪雨による風雨災害が発生するなど、まさに気候危機と言うべき状況であり、その対策は不可欠なものとなっております。

2015年に合意されたパリ協定では、「産業革命からの平均気温上昇の幅を2℃未満とし、1.5℃に抑えるよう努力する」との目標が国際的に広く共有されるとともに、2018年に公表されたIPCC（国連の気候変動に関する政府間パネル）の特別報告書においては、「気温上昇を2℃よりリスクの低い1.5℃に抑えるためには、2050年度までに二酸化炭素の実質排出量をゼロにすることが必要」とされ、この目標を達成するために国からは、地方自治体や民間企業、NPO等が主体になった取組の重要性が示されました。

そこで、本村の将来像「人が輝き 未来につながる 美し郷 喬木」の実現と、自然豊かなこの地をこれからの世代につないでいくため、2050年までに二酸化炭素排出実質ゼロを目指し、実現に向けた取組を進めることをここに宣言します。



令和4年4月1日

喬木村長

市瀬直史